

延宝二年版行本『西行法師家集』の諸本について

斐 慶 城

延宝二年版行本『西行法師家集』（内題・外題とも）は、周知のとおり、『西行上人集』『異本家集』などと通称される西行家集の、版本として伝わる一本である。同版本については、伊藤嘉夫氏¹⁾・高城功夫氏²⁾・寺澤行忠氏³⁾・犬井善壽氏⁴⁾が、書誌や内容に関して解題を付されている。また、犬井氏によって、その本文が『西行法師家集（延宝二年版本）』（底本、同氏蔵本）に翻刻されている。ここでは、先覚のご調査の成果によりながら、管見に入った同版本の諸本について、その形態や内容を確認し、検討を加えたい。

延宝二年版行本『西行法師家集』は各所に相当数蔵されている。『私家集傳本書目』『補訂版国書総目録』『古典籍総合目録』『国文学研究資料館所蔵マイクロ資料目録』などの公刊目録類によれば、二十八本ほどが知られている。また、『補訂版国書総目録』に、延宝三年版行本として掲げられている京都大学附属図書館蔵（未見）の一本も、同館のご教示によれば、実際には刊記に「延宝二」とあるとの由で、延宝二年版行本の一本ということになる。これらのうち、これまでに、稿者の確認し得た諸本を掲げると、以下のとおりである。上欄に、本稿における通し番号を付しておく（括弧内は冊数）。

- ① 犬井善壽氏蔵鳥野幸次氏書入本（一冊）
- ② 和歌山大学附属図書館蔵 紀州藩文庫本（四冊）

③ 中京大学図書館蔵本（二冊、但シ雑部ノミ）

④ 東京大学国文学研究室蔵本（四冊）

⑤ 宇治市立図書館蔵 新井文庫本（四冊）

⑥ 大阪女子大学附属図書館蔵本（四冊）

⑦ 筑波大学附属図書館蔵（ル三六・二）本（四冊）

⑧ 筑波大学附属図書館蔵（ル三六・五）本（四冊）

⑨ 早稲田大学図書館蔵本（四冊）

⑩ 青森県立図書館蔵 工藤文庫本（四冊）

⑪ 中央大学図書館蔵本（四冊）

⑫ 陽明文庫蔵本（四冊）

⑬ 初瀬川文庫蔵本（三冊、但シ春夏秋冬欠）

⑭ 国立国会図書館蔵本（二冊）

⑮ 白鹿記念酒造博物館蔵本（二冊）

⑯ 今治市河野美術館蔵本（二冊）

⑰ 宮内庁書陵部蔵本（一冊）

⑱ 神宮文庫蔵本（一冊）

⑲ 酒田市立図書館蔵 光丘文庫本（一冊）

⑳ 刈谷市立中央図書館蔵 村上文庫本（二冊）

以上の諸本のうち、①④⑦⑧⑨⑭⑰以外は、国文学研究資料館収蔵のマイクロフィルム・紙焼写真の資料による調査である。

まず、右に示したように、管見の同版本の諸本は、冊数が、一冊本、二冊本、四冊本と、三様がある（欠本は除く）。そのような形態で存することについては、寺澤氏・犬井氏にご指摘があり、二冊本と一冊本は、それぞれ四冊本を合冊したものであるとされる。

この版本には、書名・巻数・丁付を示す版心が刻されており、

〔西一 一 (一) 二十六終〕 (春 1 128 夏 129 163)

〔西二 一 (一) 三十三終〕 (秋 164 冬 272 冬 273 310 戀 311 370)

〔西三 一 (一) 二十四終〕 (雑 371 463 詞書)

〔西四 一 (一) 二十六終〕 (雑 463 歌 592)

〔西四 三十七終 (又ハ二十七終)〕 (跋文・刊記)

とある (跋文・刊記を刻す別丁の丁付は、①⑥に「三十七終」、⑦⑧⑨には「二十七終」と訂正)。また、近世に刊行された出版書籍目録類を見ると、『古今書籍題林』(延宝三年京都毛利文八刊)『新增書籍目録』(延宝三年江戸刊)などに、同版本が「西行家集」の略書名で掲出され、冊数の欄に「四」とある。

このように、版心の巻数・丁付の表示や出版書籍目録における冊数の表示によれば、両氏が指摘されるように、元もとは四冊本として刊行されたものが、後に二冊本または一冊本に改装されたと見てよい。なお、管見の限り、四冊本の形態で存するものが多く、その殆どの印刷題箋に「西行法師家集 春夏一 (秋冬恋二、雑三、雑四終)」(②④⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫)とある。

また、冊数のほか、末尾の刊記において、諸本の間に相違が見られる。刊記については、寺澤氏が、「中村七兵衛」「永田長兵衛」の書肆名のある刊記を持つ本のほか、「中村七兵衛」を削って「永田長兵衛」のみ残している後印本があることを指摘される。そして犬井氏は、「南山騎客一無軒道治」の編者名と「中村七兵衛」「永田長兵衛」の二人の出版書肆名のあつる版、編者名を欠く版、編者名と「中村七兵衛」を欠く版と、少なくとも三度の版行があつたことを想定される。

管見に入った同版本の諸本の刊記の型によって整理すると、「或人西行法師の家集」として密なはしをく事年久し(中略)早梓に鏤よとすゝめて

開板し畢ぬ」とある跋文に続き、

(一) 出版年月・編者の署名・二店の書肆名を刻すもの (①②③)

千時延寶二林鐘日

南山騎客一無軒道治

書堂 中村七兵衛

永田長兵衛

開版

(二) 出版年月・二店の書肆名を刻すもの (④⑤)

千時延寶二林鐘日

() 空白 ()

書堂 中村七兵衛

永田長兵衛

開版

(三) 出版年月・一店の書肆名を刻すもの (⑥⑨⑩)

千時延寶二林鐘日

() 削除ノ痕又ハ空白 ()

書堂 (削除ノ痕又ハ空白)

永田長兵衛

開版

の三つの刊記が存する (⑥は跋文・刊記の丁を欠く)。なお、未見ではあるが、京都大学附属図書館のご教示によれば、京都大学(文学部・国文)蔵本が(二)の刊記を、同館蔵本が(三)の刊記を有するとの由である。犬井氏が指摘されるように、延宝二年版行本『西行法師家集』には、右に掲げる(一)(二)(三)の三種の刊記があることが確認できる。

それぞれの刊記を刻す本の内容をみると、いずれも本文に異同はない。つまり、管見の同版本の諸本は、刊記の差によって三つに分けられるが、その本文はいずれも全く同文であり、すべて同版であると認められる。よつて、延宝二年版行本『西行法師家集』は、同一の版本を用いて、本文そ

のものには手を加えず、出版年月・編者の署名・二店の書肆名のある「一
無軒道治編延宝二年中村七兵衛永田長兵衛版（第一刷り）、第一刷りの編
者の署名を削った「中村七兵衛永田長兵衛版」（第二刷り）、第二刷りの一
店の書肆名を削った「永田長兵衛版」（第三刷り）」と、刊記のみを改める
形で、版を三度重ねていることになる。延宝二（一六七四）年初刷りの後、
どれくらい時を隔て二刷り・三刷りが刷り出されたのかは判らないが、
『増益書籍目録大全』（元禄九年河内屋喜兵衛刊）に「四 永田長」（冊数・版
元）として同版本が掲出されている。それによれば、少なくとも元禄九
（一六九六）年までには（三）の刊記の型として刷り出されていたことが
推される。

管見の限りでは、現存伝本は、数的には、第一刷りと第二刷りのものは
希少で、第三刷りである「永田長兵衛版」に属するものが多い。この第三
刷りの版の版本には、印刷面の不鮮明なものや摩滅欠損・匡郭の切れ目の
目立つものが多く、かなり刷りを重ねることが推定される。なお、四
冊本の⑥⑦⑧は永田長兵衛の書肆名のみを記すが、②は編者の署名・二店
の書肆名を記し、④⑤は編者の署名を削って二店の書肆を記すものであ
る、といった具合で、初刷りも二刷りも三刷りも四冊本であったと見てよ
い。一冊本・二冊本という合冊と刊記の型とは関連がないことを申し添え
ておく。

ちなみに、写本のうち、三原市立図書館蔵『西行法師家集』と岩国徴古
館蔵『西行法師家集』の末尾に、同版本の跋文と（三）の刊記が転写され
ている（国文学研究資料館収蔵のマイクロフィルムによる調査）。また、石川県
立図書館李花亭文庫蔵藤岡作太郎氏旧蔵『西行法師家集』が、藤岡氏・高
城氏の解題によれば、末尾に、同版本の跋文と（一）の刊記の出版年月・
編者の署名「于時延寶二林鐘日 南山騎客一無軒道治」を有するものであ

る。但し、現状は奥書がない。⁽²⁰⁾

本稿は、延宝二年版行本を底本として『西行法師家集』『西行上人集』『異
本山家集』などと名付けられる西行家集の本文研究を試みようとしている
稿者の最初の作業として、管見の同版本の諸本について、以上のような整
理検討を行ったものである。先覚の付される同版本の解題の書誌的事項に
おいて、それぞれの掲出本の刊記が必ずしも同じくしない点を不審に思っ
たが、管見の同版本の諸本の調査により、刊記を異にする三版が存し、そ
の本文はいずれも全く同文であることが確認できた。また、初刷りに属す
ること、印刷面が鮮明で摩滅欠損がないことなどから、第一刷り本を以て
底本とすべきであることを確認した。

なお、稿者にとつて原典による調査が可能であること、公刊の翻刻の底
本であることなどから、合冊本ではあるが、犬井氏蔵「一無軒道治編延宝
二年中村七兵衛永田長兵衛版」の延宝二年版行本『西行法師家集』を底本
として、同家集の諸写本の対校に際しても、検討の底本としてよいと判断
している。

[注]

- 1 伊藤嘉夫氏「西行の諸集と諸撰集に於ける西行の歌に就いて」（『纂訂西行法師
全歌集』附録 大岡山書店 昭和一〇年二月、昭和六二年四月復刻）、同氏「西
行歌集の展望」（『歌人西行』鷲の宮書房 昭和三二年二月、昭和六二年四月復
刻）など。
- 2 高城功夫氏『山家集』諸本の研究（一）（『東洋大学大学院紀要』第七集 昭
和四六年三月）→同氏著『西行の研究―伝本・作品・享受』（笠間書院 平成一
三年三月）に再録。
- 3 寺澤行忠氏「西行上人集伝本考」（『経済学部日吉論文集』三五 昭和六〇年三
月）

4

犬井善齋氏編『西行法師家集(延宝二年版本)』(底本、犬井善齋氏蔵鳥野幸次氏書入本。昭和六二年三月)の「解題」

注4前掲書

京都大学附屬図書館のご指示によれば、『京都大学蔵大徳本目録』には「延宝2刊」と正しく掲出されているが、目録カードの記載に「延宝3年刊」と誤りがあるとの由である。筑波大学中央図書館相互利用係・レファレンス係の照会による。

7

注3前掲書

8

『古今書籍題林』(延宝三年京都毛利文八刊)、『改正広益書籍目録』(貞享二年修版)、『広益書籍目録』(元禄五年京都永田調兵衛等四名刊)、『新版増補書籍目録』(元禄十二年京都永田調兵衛等三名刊)、『新增書籍目録』(延宝三年江戸刊)、『書籍目録大全』(天和元年江戸山田喜兵衛刊)、『増益書籍目録大全』(元禄九年河内屋喜兵衛刊・宝永六年増修版・正徳五年修版)に冊数が「四」と記されている(斯道文庫書誌叢刊之一『江戸時代書林出版書籍目録集成』(三・索引)による調査)。

9

その他、⑤(四冊本)『西行法師家集 一(二、三、四)』、⑩(二冊本)『西行法師家集 春夏一(秋冬恋二)』、⑪(二冊本)『西行法師家集 上(下)』、⑬(一冊本)『西行法師家集 四季恋雑』(但シ部立ハ墨筆) などとある。

10

注3前掲書
注4前掲書の「解題」
医師・地誌作者。その著に『高野山通念集』(延宝元年頃刊)、『蘆分船』(延宝三年刊)、『住吉相生物語』(延宝六年刊)、『難波鑑』(延宝八年刊) などがある。

12

その生涯・経歴・家系は未詳。『古板地誌叢書七 通念集 三』「解題」(朝倉治彦氏担当、すみや書房 昭和四五年八月)、山内潤三氏『高野山通念集』考(大谷女子大論文) 第九号 昭和四四年三月)に道治に関する概観がある。

13

矢島玄亮氏編『徳川時代出版者出版物集覧』(萬葉堂書店 昭和五一年八月)によれば、京都の書肆『和漢朗詠集』(寛文十三)、『季吟甘会集』(延宝四)、『齋別受八戒作法要解』(延宝七)、『徒然草諺解』(延宝五) などの出版がある。

14

『日本古典書籍書誌学辞典』(岩波書店 昭和一年)の「永田調兵衛(安永美穂氏担当)」の項に、「京都の書肆。堂号文昌堂。屋号菱屋。初代から三代までは長兵衛、四代以後は調兵衛と称した」とある。延宝年間の出版物に、注14の前掲書によれば、『伊勢末社伝記』『字林大全』『節用集大全』(延宝八) がある。

15

二本とも、京都大学附屬図書館より同館蔵本の書誌に関して「教示を得た際の(注6参照)」「提供の目録カード(複写)」による。同館蔵本は『京都大学蔵大徳本目録』も参照。

16

『増益書籍目録大全』(元禄九年刊・宝永六年増修版・正徳五年修版、注9の前

17

18

掲書による調査
藤岡作太郎氏編著『異本山家集 付西行論』(本郷書院 明治三十九年一〇月)所収「附録西行論」→西澤美仁氏編『西行研究資料集第四卷 異本山家集 附録西行論』(クレス出版 平成一四年一〇月)に復刻。

19

注2前掲書
石川県立図書館のホームページのデジタル図書館に公開されている『西行法師家集』の図版によって確認すると、奥書を有しない。寺澤氏(注3前掲書)の解題に、「奥書なし」とある。現状、奥書を欠くか。

(マ) キョンア 筑波大学大学院 文芸・言語研究科 学生)